
天使の歌 ～ ♪ ～

真紀月 ルナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使の歌くく

【Nコード】

N5103B

【作者名】

真紀月 ルナ

【あらすじ】

主人公希由は、「引きこもり」少女である。でも、彼女は窓から父と母のスキを見計らって外の世界へ1日1回必ずいく。そんなある日、ストリートミュージシャンの忍とあい・・・！？

プロローグ

彼女は、世界の中で1人しか居ない奇跡の歌声をもつ少女。

だが、その声の存在は14年間誰にも知られていない。
そして今も・・・・・・・・・・

この話は、その少女とある青年の物語。

「く空にいつて、空を眺めてただそれだけでいいの
ワタシは空にいきたいの」

2

コンコン

「希由ここにご飯おいとくわよ」

1人の声とノックの音が聞こえた。

母の声だ。すぐにそう分かった。

「・・・・・・・・・・」

私は返事をしなかった。

母はため息を1つついて階段を下りていった。

私は1言でいうと、「引きこもり」っていう奴だ。
でも、必ず1日1回は窓から外の世界へ出る。

何で部屋のドアから行かないかって？

それはね部屋のドアを開けるとあの思い出したくもない学校へ行かないとなると、とても開ける気にはなれない。

まあ、ご飯を食べる時はかすかに開けるけど……

・

時計を見ると今は夜の7時だ。

よく母は、私のご飯を持ってくるとそのまま台所でねてし、父はよく違う女とよくホテルへいっておそく

なるし

最低でも、11時が目安だろう出掛けるなら今がチャ

ンスだ。

そう思い、窓から体をだしそのままジャンプすると怪

我をするので

かさをさし、近くの芝生へ飛び降りた。

なんとか成功。

そのままワタシは、闇の世界へと自ら入っていった。

「悪魔は味方、天使は敵」

そう歌いながら。

風

ざわざわ……この漂う嫌な音に希由はしんどがっていた。

もう、何回も来ているこの町だけどこの人ごみやそいつらの喋る音があまりにも、汚らわしくてどうしてもなれなかった。

そんな町を訴えるかのように希由は歌った。

「きれいな町、汚いそら、穢れている人

こんなキレイな町なのに、何故汚すの？

自然がこんなのに、したんじゃない私たち人間がしたんだ……

」

歌っている時に、酒の臭いがプンプンに漂っているおっさんが希由の腕をつかんだ。

「おい、姉ちゃんなんつー事いうんだい。」

」

そう、強い怒り口調で言った。

おっさんが、大きい声で言うもんだから人が集まってきた。

やばい………！！

直感的にそう感じた。

今ココで揉め事を起こせば、親が来て私が外出していた事がばれてしまう。

誰か・・・！！

そう思った瞬間すごい風が襲ってきておっさんの手が離れた瞬間

今だ！そう思い私は走った。

「おい！まで・・・」

おっさんが追いかけてきた。

このまま走り続けたら、確実に追いつかれる。
足も限界に近づいてきた。

そんな時、横に細い道を見つけそこへ入り込んだ。

入り込んだ後に、おっさんのハアハアとした声が聞こえ

「・・・クソッ」

そう一言小さい声で言い
帰っていった。

助かった。そう思ったと同時にあの風を思い出した。

偶然か？そう思ったりもした。

でも、あまりに偶然すぎる。

まあ、たすかったんだからいいか。

そう思い、元来た道を辿って帰っていった。

「やっと見つけた・・・」

そう1人の声が、聞こえたのだが

希由は知るよしもなかった。

第2話　偶然

昨日の夜あった次の日、私はまた同じ所に来ていた。

どうしても、きのうあった事がやはり偶然か？

それとも……そういう思いがもやもやしていて
イライラしてくる。

「西の空に星を乗せてさあ、出掛けよう。

東の空へ

行った事もない、未知の世界。

不思議な世界

さあ、後悔をする前に……」

町には沢山いる、ストリートミュージシャン。

私は何回もストリートミュージシャンに会った。

でも、必ずそんなの無視して来た。

でも、何故かこの人の歌に私は惹きつけられた。

・人々はどういうのを「運命」というのだろうか……

「初めて？俺の曲聞くの。」

あっちから話しかけて来た。

普通ならやはり無視して通り過ぎ去るものを

今日は、気まぐれというものか

そこで立ち止まって話す事にした。

「うん。初めてあなたの曲聞くの。」

でも、いつもここ通っているけれどあなたの姿なんて見えなかったわよ？」

「うん。俺いつも違う所でやってるんだ。」

でも、今日先客いてさ。仕方ないからココへ来たんだ。」

ふーん、そう思った。

私は昨日起きた事が気になってここへ来た。

彼は、先客がいたからここへ来た。

不思議だ。お互いたまたまココへ来た。

こんな偶然があるんだな……

そう思った。

そうして、話してみると以外に話があった。

彼の名前は「忍」というらしい。

明日も同じ所で待ち合わせ。

そういう事になった。

なんだか、嬉しかった。

こんなに嬉しいのはとても久々だ。

忍に感謝しなきゃ・・・眩きながら帰っていった。

明日があるのが、とても待ち遠しかった。

第4話

忍も、希由も眠っているころ「ある世界」では話合いが行われていた。

「やはりライと出会ってしまったか・・・」

「ドベルト王！今度こそライを連れ戻しましょう！！

エカ姫王女は、まだ記憶を戻っていませんが

ライは、記憶が完全に戻りつつあります。

このままでは、時間の問題です！！」

「まあ、少しあわてすぎだイラよ。

お前が、前世2人に裏切られた事は良く分かっている。

でもな、もう少しこの2人を見守ってやってくれないか？

私はこの2人を信じたいのだよ。」

「・・・・・・・・」

「もう少しだけ信じさせてくれ・・・」

その後の2人の会話はなくただ無言の沈黙が起きていた。

「・・・・・・・・」

もう朝か、まだ頭が完全に覚めていないと思いつつも
ベッドから降りた。

さっきの夢は一体なんなのだろう？

私は、夢を見ても良く忘れる方で

こんなに、リアルに夢を覚えてたのは初めてだ。

ライ・・・？ドベルト王・・・？エカ・・・？イラ・・・？

そう考えていると、突然頭に頭痛が走った。

何！？

でも、1瞬で痛みは消えた。

ナンだったのだろう、そう考えた。

時計は、午前7時を指していた。

まだ、夜の7時まで10時間もある。

ヒマだなそう思ってると思ってる。

あの曲を

「普通な家庭をありがとう

普通の幸せをありがとう

そんな、すつごく幸せなんてなくていい

ほんとに、小さい幸せでもね

幸せならどんなに小さくてもいいの。

だって、どんなにちいさくても

幸せに違いはないから・・・

風が吹き、花が咲き、空が晴れ、大地がおおい・・・

ああ、なんてすてきな世界でしょう

普通の家庭をありがとう

私は、そんな普通を願っていたんです。

神様、ありがとう・・・・・・・・・・」

ハッ、我に返った。「また」歌ってしまった。
この歌を。曲もワカラナイ、この歌を・・・・・・・・。

こんな事を考えていたら、また睡魔に
襲われてきた。

もう1眠りしよう・・・・・・・・

早く忍に、会いたいな・・・・・・・・
そう思いながら・・・・・・・・

はやく、夜にならないかなって忍に会いたいな・・・
そう思いながら眠りにおちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5103b/>

天使の歌 ~ ♪ ~

2010年10月8日12時54分発行